

かわろばん

NUMBER
108

川崎異業種研究会

○発行/川崎異業種研究会 広報部 ○発行日/平成19年6月5日

創立20周年記念式典 盛大に開催



平成19年5月10日(木)午後4時30分より、川崎日航ホテルにおいて、川崎異業種研究会 創立20周年記念式典が、川崎商工会議所 副会頭 山田 長満氏、川崎市経済局 局長 大谷悦夫氏を始め多くの来賓を迎え、会員、関係者約120名が集い、盛大に開催した。

当日の式典は、第1部の通常総会に始まり、第2部のセミナー「次世代を担う人材育成塾“夢づくり塾”」、第3部の懇親会の内容で行われた。

第1部の通常総会では、平成18年度事業報告・収支決算、平成19年度 事業計画(案)・収支予算(案)、役員交代(田村前会長[第9代]から小林新会長[第10代]含む新役員人事)等が諮られ、全会一致で承認された。

第2部では、20周年記念事業「次世代を担う人材育成塾～夢づくり塾～」のタイトルで、次世代を担う若手後継者12名が、コーディネーターの竹内幸次氏(株)スプラム代表取締役/中小企業診断士)のアドバイスを受け、将来の企業像やどんな人物になっているか等、それぞれが思い描く“夢”を個別に発表するセミナーが行われた。

第3部では、今後活躍が期待される新人歌手Spiritとヒルタユミと魅惑の東京サロンのコンサートを聴きながら、食事と懇談を楽しみ、成功裏に終了した。

ご挨拶



会長挨拶

小林健一

(有限会社 ティアイテック/代表取締役)

川崎異業種研究会も設立以来20年の月日を重ね、全国的にも有数の歴史ある異業種交流会に育ってまいりました。ひとえに会員会社の皆様、事務局を始めとする会議所の皆様、いろいろな形で川崎異業種研究会を支えていただいた多くの皆様のお力があればこそ、今日であると深く感謝申し上げる次第でございます。

この間、バブルの崩壊やデフレスパイラルなど、我々企業を取り巻く環境も大きく変動し、会員会社の入れ替わりもあり、設立当初のモノづくり中心の研究会から、現在では本当の意味で異業種といえる、製造、販売、教育、物流、サービスなどなど多くの業種の方々にご参加いただくようになっております。異業種グループの全盛の創設当時から見ると、会員会社数はやや少なくなってはおりますが、近年は40社前後で安定した活動を続けており、活動の範囲も広がってまいりました。

たとえば設立当初より力を入れてまいりました人財確保と育成、経営研究セミナー、会員企業のIT化推進、新商品の開発、研修を兼ねた視察会などバラエティーにとんだ活動に加え、最近では和光大学と産学連携にかかわる包括契約を結び、相互の交流、講師の派遣、学生さんの事業計画へのブラッシュアップ、会員企業へのインターンシップ受け入れなど、連携事業の一環として実施してまいりました。

また、長期にわたり安全と安心に係わる事柄について情報の収集、論議勉強し、いま現在新たな事業計画や新製品の構想を育みつつあります。

さらに川崎異業種研究会ならではの事業として、昨年川崎市民のためのニューメディア、BB川崎TV放送を立ち上げ、現在この事業の法人化を計画しております。ちなみにこのBB川崎TV放送は昨年度の川崎市イメージアップ事業の認定をいただいております。

このように川崎異業種研究会は、他の異業種交流にはない独自の事業に力を入れてまいりました。これは伝統の中に川異研イズムという一つの文化が形成されたものと感じております。今後もこの川異研イズムという文化を堅持し、ますますの発展を期する所存でございます。

さて川崎異業種研究会もようやく二十歳を迎え、成人と成ったことですので、これを機に積極的な会員増強策を推進し、もっともって体力を付け、あらゆる業種との連携交流を行う新時代の異業種交流を目指してまいりる所存でございます。

あらためまして、私自身は若輩微力でございますが、先輩方々の築かれた川崎異業種研究会の良き伝統文化を継承し、更なる発展に全力を尽くす所存でございますので、皆様方からのますますのご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

なお今後川崎異業種研究会の事業内容は

1. 経営情報委員会を主体とする人財育成事業と産学連携の推進

景気の回復がダイレクトに我々中小企業に反映されず、高齢化による人手不足は深刻になっております。新人の採用もさることながら、大企業のようなOJTによる教育もままならぬ事ですので、中小が協力し合っって人財の確保と育成を行うべき時と考えています。また和光大学殿との産学連携も2年目となり、インターンシップや学生の事業計画応援、社会人リレー講義など一步一步ではありますが実績を積んできました。今年は一歩踏み込んで相互にメリットのある結果を残し、次に繋げてまいりたいと考えております。

2. 商品開発委員会を主体とした安心安全・BB放送など既存事業の企業化推進

昨年度より始めました、安心と安全を研究する企画からも各種の事業化案が出てきており、これらについても企業化を目指す方向で進めます。また一昨年に企画したBB放送事業が、ようやく形になってきましたが、未だ事業化には至っておりません。川崎を思う企画であることから、市関連の各方面から期待されていることも有り、委員会レベルに上げて推進を図りたいと思います。

3. 定例会を主体とした企業間協力の推進と研修交流の推進

モノづくりや販売にとらわれない、多様な取引や協業を進め、自社の弱い面を相互に補うとことで、たとえば管理コストの削減、生産販売方法の異業種的な指南、新たなアイデアと協力による新分野進出の協力など、もっと積極的な会員交流にしていきたいと思います。また川崎異業種研究会の良き伝統である、定例会での県外視察と研修交流会は、今後も従来通りに継続し、会員交流と新会員募集の要にしていきたいと思います。

以上を企画しておりますので、ご指導ご鞭撻方宜しくお願い申し上げます。



前会長挨拶

田村 隆

(株式会社タムラコーポレーション/代表取締役)

コミュニケーショングループ川崎異業種研究会(略称:川異研)は、1987年に川崎商工会議所の呼びかけにより1社では解決できない問題を、異業種企業のネットワークの活用で活路を見出すことを目的に設立されました。

中小製造業の技術交流による共同開発をはじめとし、経済変化に対応すべく共同求人活動や経営情報交換等、活発な活動を20年に亘り展開して参りました。これだけの長い期間継続している異業種交流会は極めて稀であります。今後参加企業が更なる発展を遂げるためには、次代を担う人材の育成・夢を語れる経営幹部の養成が第一と考え、この20周年を機に若手経営者への支援を目指すことと致しました。20周年記念事業である「夢づくり塾」開講を機に、世代を超えた交流で、今まで以上に商品開発・人材育成に力を注ぐ会にして参る所存でございます。

今後とも川異研へのご教導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



20周年記念式典実行委員長挨拶

竹之内 豊

(フジクス 株式会社/代表取締役)

川崎異業種研究会創立20周年記念式典の開催にあたりまして、川崎商工会議所山田長満副会頭、川崎市経済局大谷悦夫局長をはじめ、ご来賓の方々、そして多くの会員のご家族・社員の皆様のご臨席を賜り、盛大な式典を開催できましたことは、我々会員一同大きな喜びであり、心より厚く御礼を申し上げます。

省みますとこの20年間、異業種交流によって新商品や技術の共同開発、新卒学生獲得の共同求人活動、経

営ノウハウや情報の交換などの機会を得、各会員企業は少なからず経営への影響を受けてきたのが川異研の存在でした。そして何よりも、よく「経営者は孤独である」と言われますが、この異業種交流活動を通じて多くの友人を得、相互の助言や励まし合いにより、経営者としての責任を果たすことができたことも本会の大きな意義であったと感謝するところであります。

この20年のお祝いを機に、今私たちは次の目標に向かい一歩を踏み出しました。この祝典のテーマは「世代を超えて未来へ」

と題しましたが、文字通り意図するところは(新旧交替)ではなく、「新旧融合」です。

団塊の世代・2007年問題・後継者育成などが経済社会で取り上げられている昨今ですが、川異研は世代を超えた経営者、経営幹部の交流の在り方を研究課題に取り込み、今後は会の一層の活性化に努めて参る所存です。

今回20周年記念でのお役目を頂き、何よりも感銘を受けたことは、メインの事業として行った「次代を担う人材育成塾(夢づくり塾)」へ参加された若い経営者や経営幹部の方々が、諸先輩の声に真摯に耳を傾ける姿勢についてでありました。このように年輪が増せば増すほど、社会への貢献も高くなると確信致しました。

本会が更に30年、50年と続けられますよう、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りたくお願いを申し上げます。20周年記念式典に際しまして、ご支援ご協力誠にありがとうございました。



第1部 通常総会

司会:開会の言葉／藤田副会長
会長挨拶／田村会長
議長選出・議案審議／田村会長
新役員紹介／小林新会長



第2部 記念式典(「夢づくり塾セミナー」)

司会:島岡美延(かわさきFMパーソナリティー)
開会の言葉／清水記念事業委員長
講師紹介／田村前会長
講師挨拶／スプラム代表取締役
 中小企業診断士 竹内幸次氏
[セミナー発表]
(株)クレール 清水正巳氏
「川異研 異業種力を生かしたオリジナル製品の製作」
たつみ工業(株) 取締役 岩根弘幸氏
「川崎から全国へ 日本一を目指す」



(株)清水康益社 常務取締役 清水宏明氏
「いつまでもその日をここにしたい…」
(株)タムラコーポレーション 田村泰子氏
「働きやすく活躍できる環境づくり」
フジクス(株) 技術研究室長 大津芳永氏
「幸せと感じるとき、なりたい自分、やりたい事」
シンワフロンテック(株) 部長 藤田洋行氏
「事業拡大と自分の仕事の発見」
(株)LR小川会計 代表取締役 小川泰延氏
「『夢づくり塾』に参加して」
タイジ(株) 部長代理 浅野順一氏
「おもてなしの心=ホスピタリティーサービス」
(株)MURONE 取締役 室根貴之氏
「6つのバランスを保ち実行する」
(株)菅原電機工業 代表取締役 菅原智照氏
「私のふたつの夢」
(株)工苑 野見山望氏
「サーボ制御の第一人者」
フジクス(株) 課長 高木和己氏
「異業種力を駆使した『KAWASAKI』ブランド構想



第3部 懇親会

司会:島岡美延(かわさきFMパーソナリティー)
会長挨拶/田村前会長
来賓挨拶/川崎商工会議所 副会頭 山田長満氏
来賓紹介
記念誌CD紹介/木下副会長
乾杯/神奈川県異業種グループ連絡会議 議長 南出健一氏
記念コンサート
〔1部〕 Spirit
〔2部〕 ヒルタナユミと魅惑の東京サロン
新旧会長引継/田村前会長
新会長挨拶/小林新会長
閉会の言葉/羽曾部理事



なごやかな懇親会風景



平成19年度 川崎異業種研究会 役員名簿

順不同

役員名	氏名	会社名	役職名	備考
会 長	小林 健一	(有)ティアイテック	代表取締役	
副会長	紀中 靖雄	賛友精機(株)	代表取締役	
	藤田 智	(株)LR小川会計	取締役企画開発部長	経営情報委員長
	菅原 智照	(株)菅原電機工業	代表取締役	商品開発委員長
理 事	飫富 順久	和光大学	経済経営学部教授	
	飯島 英毅	(株)アクト	代表取締役	広報部会長
	原 務	太協商事(株)	取締役	
	池田 庸一	(株)アイ・ビル・サービス	代表取締役	
	野見山紘一	(株)工苑	代表取締役	
	羽曾部松雄	シグマ技研(株)	代表取締役	
	竹之内 豊	フジクス(株)	代表取締役	
	清水 忠	(株)クレール	代表取締役	
	金究 武正	山勝電子工業(株)	代表取締役	
	木下 茂	(株)インフォメックス	代表取締役	
	吉田 厚英	(株)日本メンブレン	代表取締役	
	監 事	服部 和生	中央青山監査法人	代表社員
岩根 弘明		たつみ工業(株)	代表取締役	
顧 問	田村 隆	(株)タムラコーポレーション	代表取締役	

事務局担当名簿

〔事務局〕 川崎商工会議所中小企業振興部		
本部・支所名	氏名	担 当
多摩麻生支所	斎藤 隆	定例会・理事会
中原支所	酒井 一郎	総会・監事会
本 部	田村 光敏	渉外
高津宮前支所	兼次 誠一	広報部会・かわらばん編集

定例会報告

4月26日(木)午後6時 川崎商工会議所会議室にて、25名出席。

[内 容]

- 5月10日に開催される20周年記念式典・記念事業・記念誌について、各担当責任者から説明が行われた。
- 「記念式典について」 竹之内氏から、当日のタイムスケジュールを中心に、総会から懇親会まで長時間に亘るので、挨拶関係は少なくする旨の説明があった。
 - 「記念事業について」 清水氏より、昨年10月から『夢づくり塾』が、11回に亘って開催された。当日の記念事業セミナーの中で塾生12名が、その成果を、それぞれ発表してもらう旨の説明が行われた。
 - 記念誌について、木下氏より、記念誌の現在の進捗状況と出来具合について、プロジェクターを使って全員に見てもらいながら説明が行われた。
 - その他として、田村会長より、川異研の20周年にあたり、「FMかわさき」1時間の特番 5月14日(月)18時～19時の紹介、小林次期会長から理事会の報告、事務局より「かわらばん」の19年度の方針、東システムサービス松井氏の退会報告及び新入会希望者の当日参加の紹介があった。
- その後会場を移して懇親会が行われた。懇親会は、小林新会長の乾杯の挨拶に始まり、しばし懇談し、その後竹之内氏の閉会の挨拶があり、盛会裏の内に終了した。

経営情報委員会

委員長 藤田 智

■ 3月定例会

[日時]平成19年3月28日(水)午後6時30分～8時30分

[場所]川崎市総合自治会館 特別室

[参加者]小林、羽曾部、野見山、中野、角南、藤田、服部 計7名

[内容]

(1) 討議 経営情報委員会のH19年度活動内容について討論し、下記のとおり進めることとした。

4月 川崎信用金庫 大西部長講演 地域経済の現状と課題

5月 人材募集方法 業者に依頼

6月 アジア企業家村構想について

7月 合同納涼会

9月 和光大学との合同討論会

10月 中堅社員研修会

11月 会員企業のトピックス発表

12月 合同忘年会

2月 セミナー

3月 セミナー

(2) 研修 税制改正のポイント 経営者編

税理士法人 思援 代表社員 天野隆氏制作のビデオにて、会社経営に関する部分を研修した。

(3) 懇親会 午後8時30分～10時

■ 4月定例会

[日 時] 4月18日 午後6時～7時30分

[場 所] 川崎市総合自治会館

[参加者] 10名

[内 容]

(1) 講演 演題 「地域経済の現状と課題」

講師 川崎信用金庫 情報調査部長 大西淳夫様

今回は昨年4月に着任された大西部長に、地域経済についてご講演いただきました。

永らく、前任の榊原豊喜様の名解説をいただいておりますが、このたび大西部長から新たな視点から、川崎市ないしは神奈川県について解説していただき、企業経営の基盤を見つめる手法をご教授いただきました。

ややもすれば東京と横浜に挟まれた立地をマイナスに捉えがちですが、今一度プラス思考で川崎を見つめていただくことを強調されたことをご案内しておきます。

(2) 連絡事項 次回の日時は5月16日(水)午後6時～9時、川崎市総合自治会館

第2会議室にて、開催。検討課題 人材募集方法解説

(3) 懇親会 午後7時50分～9時。

商品開発委員会

委員長 羽曾部 松雄

■ 3月定例会

[日 時] 3月7日(水)午後6時30分～8時

[会 場] 川崎市中小企業婦人会館 5階会議室

[内 容]

今回は新商品開発を成功させるには何を注意すればよいのか、どのように進めたら良いのか等、事例を入れながら商品開発の本質に迫る講演会を行った。

講演:「中小企業のための製商品開発のポイント」

講師:中小企業診断士 今村雅人氏

<講演内容>

- ・ 先ず企業環境の変化から、現状に満足し、何も手を打たないと淘汰されるので、新製品を開発する意義を説明されました。
- ・ 中小企業では経営資源(人・物・金・情報)が不足しているので、ニッチな市場を狙うべきである。
- ・ 顧客ニーズ(潜在ニーズと顕在ニーズがあることに注意しつつ)への対応と自社の長年に渡って磨き上げた技術をベースにして開発を進めること。
- ・ 開発プロセスは市場ニーズの探索と保有技術からの予測をベースに製品コンセプト、計画、組織化、実行、市場投入、のサイクルを回すようにして進める。
- ・ 他社開発の進め方の成功例、失敗例を参考にすると良い。その例として、
(1)オンリーワンの技術を持つ。(2)顧客密着で行く。
(2)ネットワークで種を見つけ、製造しあう。がありそうです。
- ・ また、部品メーカーの場合は、特にマーケティングと技術力を確かめて進むことが重要です。

■ 4月定例会

[日 時] 4月9日(水)午後6時30分～8時

[会 場] 川崎市商工会議所 会議室

[参加者] 5名

[内 容]

○平成19年度の商品開発委員会の活動方針について

○その他

平成19年度の商品開発委員会の活動方針について各委員との意見交換を行い、BB放送事業、安心・安全事業などの企業化を推進するため、下記の年間予定が組まれた。なお、席上、現委員長の羽曾部氏、と次期委員長の菅原氏からの挨拶があった。

[年間予定]

- 4月 9日(月) 平成19年度活動方針について
- 5月 2日(水) ネットショップIPCSSについて
- 6月 6日(水) クリックビジネスについて
- 7月27日(金) 商品開発・経営情報委員会合同納涼会
- 9月 5日(水) ライブカメラの活用について
- 10月3日(水) ホームページの有効化について
- 11月7日(水) 川崎BBの発展について
- 12月5日(水) 忘年会
- 2月 6日(水) ネットショップIPCSSについて
- 3月 4日(水) ネットショップIPCSSについて

